

---

# 山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター センターだより第139号(通巻第206号)

---

2015年9月25日 発行  
山梨大学教育人間科学部  
附属教育実践総合センター  
TEL 055-220-8325, FAX 055-220-8790  
E-mail: jissen-ml@yamanashi.ac.jp  
URL: <http://www.cer.yamanashi.ac.jp/>

※このセンターだよりで紹介した研究会, 研修, 教育フォーラムに関するお知らせは, 改変しない限り, 自由に複写, 配布していただいて結構です。

## ■ 教育実践総合センター研究紀要「教育実践学研究」原稿募集について

教育実践総合センター研究紀要編集委員会

平成27年度教育実践総合センター研究紀要「教育実践学研究」第21号の原稿を, 下記要領により募集いたします。多くの方々から、教育実践学研究の推進に資する論文の投稿をお待ちしております。

### 1. 投稿申込について

#### (1) 申込資格：

- (a) 本学域, 本研究科教員, 本学部教員(附属学校園教員・非常勤講師を含む。)及び退職者(ただし、本学部等に在職時の研究に関する発表のみ可)。
- (b) 本学域, 本研究科・本センター客員教授, 本センター研究員及び本センター研究協力者。
- (c) 本学教育学研究科所属の大学院生(大学院生は指導教員等の承認が必要です)。
- (d) その他、センター研究紀要編集委員会が認めた者。

#### (2) 申込締切：平成27年10月1日(木)

#### (3) 申込方法：以下の項目について記したメールを [jissen@ml.yamanashi.ac.jp](mailto:jissen@ml.yamanashi.ac.jp) 宛送ってください。

- ☆ 申込者の氏名と所属
- ☆ 共著者全員の氏名と所属
- ☆ 指導教員名(筆頭著者が大学院生の場合)
- ☆ 論文題目

### 2. 原稿提出について

#### (1) 提出締切：平成27年10月29日(木)

#### (2) 提出方法：

- ☆ 図表・写真等を含む原稿のすべてをメールまたはCD、USBメモリー等により提出してください。
- ☆ 図表・写真は各々別ファイルにしてください。
- ☆ 論文全体のレイアウトのわかるプリントアウトを1部提出してください。

#### (3) 提出先：

- ☆ 提出メールアドレス：[jissen@ml.yamanashi.ac.jp](mailto:jissen@ml.yamanashi.ac.jp)
- ☆ CD、USBメモリー、プリントアウトの提出：教育実践総合センター事務室(J424・内線8325)

### 3. その他

- (1) 刊行規程や執筆要項、原稿作成要領については教育実践総合センターの Web ページ <http://www.cer.yamanashi.ac.jp/>にある「センター出版物」－「センター研究紀要」－「投稿案内」を御覧ください。
- (2) 締切を厳守してください。
- (3) 原稿の体裁など、編集委員会より修正をお願いすることがあります。
- (4) 不明な点に関しては [jissen@ml.yamanashi.ac.jp](mailto:jissen@ml.yamanashi.ac.jp) に御相談ください。
- (5) 研究紀要は、pdf ファイルによるセンターWeb 公開と、掲載論文の概要等を印刷した研究紀要概要リーフレットの配布が行われますが、印刷された冊子はありません。
- (6) 抜刷印刷をご希望の方は、論文著者の経費で承ります。

## ■ 第1回山梨大学教師塾「授業力養成講座」が開催されました

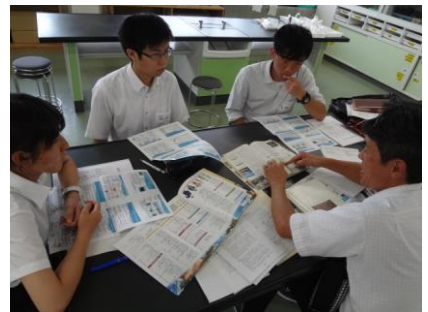
附属教育実践総合センターでは、昨年度より「山梨大学教師塾」事業を立ち上げ、学部生の授業力向上や教育実習に関してのサポートを行っています。今年度も頑張る学生を全面的にバックアップしていきこうと、その第1弾として「授業力養成講座」を開催しました。

8月下旬からの後期教育実習を迎えるにあたって、「指導案の書き方が、あまりよく分かっていない」「1時間の授業展開のイメージがつかない」「授業中の子どもの発言への対応の仕方がよく分からない」など、多少なりとも不安を抱えている学生も多いと思います。今回の「授業力養成講座」などの機会を通して、少しでも自信をもってもらえればと思います。

### 【中学校実習対象者】8月21日（金）会場：附属中学校

講師に山城小学校教頭の廣瀬学先生、附属中学校の萩原修先生、櫻井順矢先生をお迎えし、中学校実習予定者を対象に開催されました。参加学生の数は、社会（3名）、数学（2名）、理科（3名）の計8名と少人数でしたが、櫻井順矢先生、萩原修先生より授業ビデオを使った授業解説、扱う教材や指導案の書き方などについての講義や実験など、教科は違っても1時間の授業をどのようにつくっていくかを考える時間となりました。

その後、教科別に分かれての協議が活発に行われました。少人数による協議だったため、疑問や不安に思っていることも気軽に話すことができ有意義な時間になりました。



[参加学生のアンケートより]

- ・考えさせたり、気づかせたりすることが大切である。教材研究はとても大切だと感じた。
- ・自分の専門教科はもちろんですが、異なる教科についても話を聞いてよかった。
- ・実践的な知識が身に付いた。
- ・中学校での授業イメージが自分の中にできてよかった。など

### 【小学校実習対象者】8月24日（月）会場：附属小5年教室

講師に附属小学校の大間俊男先生、前島光一郎先生をお迎えし、小学校実習予定者を対象に開催され

ました。まずは、大間俊男先生による算数の模擬授業と講座、そして、前島光一郎先生による模擬授業と講座が行われ、実際の授業を通して授業づくりについて考えることができました。



算数科の講座では、「形あそび」「体積」の学習を、また、国語科の講座では、3年生で初めて出会う「俳句」をどのように扱い1時間を展開していくかを子どもの立場から、また指導する教師の立場から考えることができました。実際に指導案を作成したり、指導書の扱いを考えたりとあっという間の3時間でした。

[参加学生のアンケートより]

- ・小学校での授業のイメージがつかめた。心を入れかえて実習を頑張りたい。
- ・分からないことだらけだったが、授業づくりのヒントをいただけてとても有意義だった。
- ・発問や児童の意見の拾い方や声かけなど、非常に参考になった。
- ・一週間後の実習を控え、不安や悩みがあったが、全て解消することができた。など

## ■ 平成27年度 第1回連携・教育研究会のご報告

平成27年9月14日(月)に、山梨県総合教育センターにおいて、第1回連携・教育研究会を開催しました。この会は、教員養成や教員研修に関わって、山梨大学と山梨県教育委員会(山梨県総合教育センター)がそれぞれの「強み」を生かして連携し、双方の成果を上げようという研究会です。

全体会では、昨年度の反省を踏まえた中で、今年度の研究の方向性等が確認されました。また、主事研究については、今年度は一主事一研究のスタイルで、喫緊の教育課題を取り上げ進めていくことになります。

全体会後の各分科会は、教育課題(国語教育、理数教育、音楽・技術教育)、相談支援、情報教育の分科会に分かれ、主事研究の内容と今後の取り組み等について協議が行われました。また、教育課程実施状況調査研究については、調査結果がまとまり次第、研究に入る予定になっています。

山梨県総合教育センターにおける主事研究への支援ということで、大学側からは今年度は以下の教員が参加します。附属教育実践総合センターからは、松森靖夫センター長、小林大教授、藤田博康教授、成田雅博准教授、中澤勇三客員教授、窪島紀人客員教授、一瀬孝仁准教授が、そして、大学院教育学研究科からは、教育支援科学講座の鳥海順子教授、教育実践創成講座の服部一秀教授、言語文化教育講座の田中武夫教授、芸術文化教育講座の大内邦靖准教授が参加します。

双方の「強み」を生かして互いに連携し、山梨の教育の益々の発展に寄与できればと思っています。

## ■ 山梨県教育委員会 10年経験者研修「山梨大学セミナー」の開催

本センターでは、山梨県教育委員会10年経験者研修に協力し、「山梨大学セミナー」として毎年開講しています。今年も8月7日(金)に放送大学を会場に開催され、県内から102名の先生方が受講されました。今年度の講座は、「国際ワインと発酵食品(柳田藤寿先生)」「アレルギーの最新のメカニズムと予防/治療(中尾篤人先生)」「日本人の衣生活の変遷について(岡松恵先生)」「発達の遅れや偏りをどう支えるか?(鳥海順子センター長)」の4つでした。受講生からも「大学教員の研究している最先端の分野について教えて

いただけることは非常に貴重で有り難い」「学校での調べ学習や地域学習で取り上げてみたい」「予防やケアを充実させたい」「日本人の衣生活の変遷がとても興味深かった」「支援の必要な子どもへの対応に活かしていきたい」など大変好評でした。講師をお引き受けくださった先生方に心より感謝申し上げます。

## ■ 教育相談室に関するお知らせ

「教育相談室（L-428）」及び相談室の備品をどうぞご利用ください

「教育相談室」のご利用に際しましては、事前に附属教育実践総合センター事務室（J号館4F）にて空き状況を確認の上、ご予約ください。火曜日は附属教育実践総合センターが優先的に使用させていただきます。鍵はJ号館1階支援課にあります。利用された場合には、相談室内に置かれた使用簿及び報告書の記載をお願いします。

教育相談室の心理検査やソーシャルスキルを高める児童・生徒用のゲームなど備品も貸し出してあります。借りる際には必ず使用ノートにご記入をお願いします。

---

これまでのセンターだよりの一部は、 <http://www.cer.yamanashi.ac.jp/centerdayori.html> で見ることができます。